

君津市粟倉砦跡

－久留里鹿野山渓線埋蔵文化財調査報告書－



平成15年11月

千葉県土木部

財団法人 千葉県文化財センター

序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第470集として、千葉県土木部の県単局部改良（埋蔵文化財調査）委託により実施した君津市粟倉岩跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文時代の遺物が発見されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また文化財の保護・普及のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々をはじめとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成15年11月28日

財団法人千葉県文化財センター
理 事 長 清 水 新 次

凡　　例

1. 本書は、千葉県土木部による県単局部改良（埋蔵文化財調査）委託による埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
2. 本書に収録した遺跡は、君津市西栗倉字赤坂259-3他に所在する栗倉砦跡（遺跡コード225-025）である。
3. 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部の委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもとに、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
4. 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は、第1章に記載した。
5. 本書は南部調査事務所長鈴木定明の指導と助言のもとに、上席研究員 田島 新が執筆・編集を行った。
6. 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
第1図 国土地理院発行 1/50,000地形図「大多喜」(NI-54-20-13)
第1図 国土地理院発行 1/50,000地形図「富津」(NI-54-26-1)
第2図 君津市役所発行 1/2,500君津市地形図「H-10」
7. 周辺地形の航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。
8. 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
9. 本書で用いた公共座標、抄録の緯度・経度は日本（旧）測地系によるものである。
10. 本書に収録した遺物及び記録類は、当文化財センターで保管している。
11. 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、千葉県君津土木事務所、君津市教育委員会、千葉県立安房博物館 笹生 衛氏、(財)君津都市文化財センター 松本 勝氏、整理課職員ほか、多くの方々から御指導・御協力を得た。

本文 目 次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 調査の経緯と経過	1
第2節 遺跡の位置と周辺の遺跡	1
第3節 調査の方法	4
第2章 造構と遺物	7
第1節 発見された遺物	7
第3章 まとめ	13
報告書抄録	卷末

挿図目次

第1図 粟倉砦跡と周辺の遺跡(1 : 50,000).....	2	第5図 出土遺物(1).....	8
第2図 粟倉砦跡周辺地形図(1 : 5,000).....	3	第6図 出土遺物(2).....	9
第3図 上層確認トレンチ配置図(1 : 1,000)...	5	第7図 出土遺物(3).....	10
第4図 下層確認グリッド配置図(1 : 1,000)...	6		

表 目 次

第1表 土器組成表 11 第2表 石器組成表 12

図版目次

図版1	栗倉跡周辺航空写真（昭和42年撮影） 約1/5,000	図版4	1. 第6トレンチ 2. 第8~10トレンチ
図版2	1. 調査前風景（I区） 2. 調査前風景（II区） 3. 調査前風景（III区）	図版5	3. 下層調査風景
図版3	1. 第2トレンチ 2. 第3トレンチ 3. 第4トレンチ	図版6	出土遺物（1） 出土遺物（2）

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯と経過

千葉県土木部は、県道久留里鹿野山湊線の西粟倉地区において、道路改良工事を計画した。そこで工事区内間の埋蔵文化財の取扱いについて県教育委員会と協議した結果、記録保存の措置を講ずることになり、財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

粟倉砦跡の発掘調査は、平成15年9月1日から平成15年10月17日までの約2か月間にわたって上層及び下層の確認調査を実施した。

整理作業は、発掘調査が終了後、記録整理から移管用整理まで行い、本事業に係るすべての業務を平成15年度中に完了した。発掘調査及び整理作業を行った組織と担当者は以下のとおりである。

発掘調査 平成15年度 所長 鈴木定明
上席研究員 田島 新、研究員 永塚俊司
整理作業 平成15年度 所長 鈴木定明
上席研究員 田島 新

第2節 遺跡の位置と周辺の遺跡（第1・2図、図版1）

粟倉砦跡は君津市西粟倉字赤坂を中心とする地域に所在し、君津市内の代表的な河川である小糸川上流域左岸の鹿野山から派生した丘陵上に位置する。砦跡を含む丘陵一帯は凝灰質砂岩を含んだ泥岩層（上総層群粟倉層）で形成され、急峻な地形が広がっている。

周辺の遺跡はそれほど多くはなく、ほとんどが古代～中・近世のものであり、ここでは本遺跡との関連が考えられる中世の遺跡について触れておく。まず、城館跡では本遺跡の北側には秋元城跡^{(※1)(※2)(※3)(※4)}があり、本遺跡からもその姿を見ることができる。所在地は、市宿字古城である。秋元城跡については平成13年度と平成14年度に君津都市文化財センターで「学術調査としての発掘調査」を実施しており、主郭や根古屋などから掘立柱建物跡などが確認されている^{(※3)(※4)}。ほかに周辺では上大月砦跡、小次郎山城跡、日度根城跡、西日笠城跡、穴原城跡、奥米砦跡などがある。

なお、平成13年度の調査では縄文時代早期撚糸文土器と早期の纖維を含む無文土器が発見されている。

(※1) 矢野淳一 1999 「君津市秋元城について－現地踏査の結果から－」『君津市立久留里城址資料館年報19』

(※2) 坂井 昭 2001 「戦国武将の時代 中世の上総国の秋元氏について」 自家本

(※3) 松本 勝 2002 「秋元城跡Ⅰ」 (財)君津都市文化財センター

(※4) 諸墨知義・平塚憲一 2003 「秋元城跡Ⅱ」 (財)君津都市文化財センター



第1図 栗倉岩跡と周辺の造跡(1:50,000)



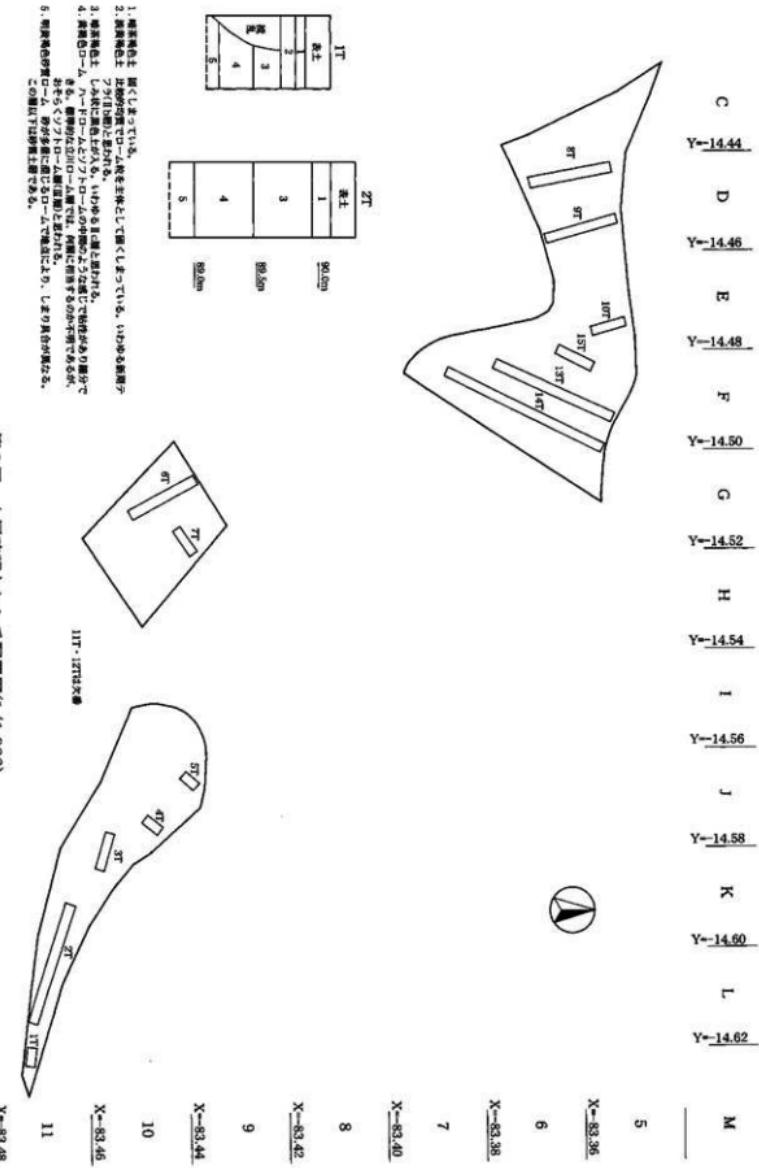
第2図 栗倉岩跡周辺地形図(1:5,000)

第3節 調査の方法（第3・4図、図版2～4）

発掘調査の開始に際して、対象となる区域を包括するように国土地理院国家座標（第IX座標）を基準とした発掘区の設定を行った。大グリッドとして一辺20mとする区画を設定し、北西隅のグリッドを起点に西から東へA・B・C…とアルファベットの大文字を付し、北から南へは1・2・3…と数字を付し、数字とアルファベットの組み合わせで大グリッドの名称とした。さらにその大グリッドを一辺2mの小グリッドに分割し、大グリッドの北西隅に位置する小グリッドを00とし、東へ向かって01, 02, 03…と、南へ向かって10, 20, 30…と命名し、100の小グリッドに分割して最小区域の調査区とした。

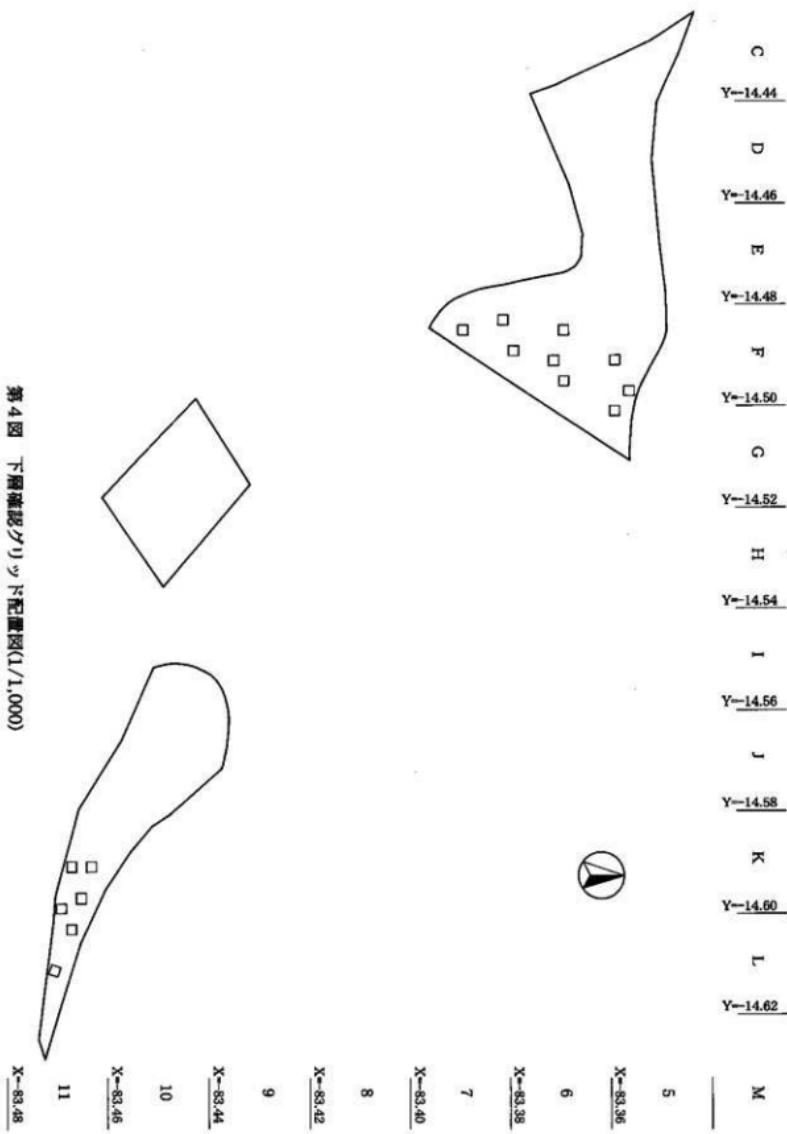
調査区は大きく北側1か所（I区）、南側2か所（II区、III区）の計3か所に分けられる。上層の確認調査は、幅2mのトレンチを調査区の状況に合わせて調査対象面積3,000m²の10%に当たる300m²について設定し、遺構・遺物の分布状況及び表土等の堆積状況などを把握しながら、遺物の散布が見られた箇所は適宜拡張を行い、最終的には350m²について実施した。なお、遺構が検出されたトレンチではなく、上層については確認調査をもって終了とした。

下層の確認調査は、上層の確認調査終了に引き続いで、ローム層の堆積状況などを考慮しながら、一辺2mの方形グリッドを調査対象面積3,000m²の2%に当たる60m²について15か所にわたりて設定し、重機と人力を併用して実施した。なお、遺物が出土したグリッドではなく、下層についても確認調査をもって終了とした。



第3図 上層確認トレーンチ配置図(1/1,000)

第4図 下園城説クリップ地図(1/1,000)



第2章 遺構と遺物

第1節 発見された遺物（第3・5～7図、第1・2表、図版5・6）

今回の調査範囲については、尾根上の比較的広い平坦部と、斜面下部に一見腰曲輪状に見える若干の平坦部が認められるほかは、急な斜面であることや様々なものが廃棄されたり、土盛りされているなど、ある程度の擾乱が予想されていた。しかし、いわゆる新規テフラと呼ばれるⅡ b層（2層）やⅡ c層（3層）が見られるなど比較的安定した堆積状況であることが判明した（第3図）。このことから、砦跡の性格を明らかにできる遺構などが検出されるのではないかと期待されたが、砦に付随する施設などの遺構はもちろん砦に伴う遺物も発見されなかった。また、これ以外の縄文時代以降の遺構も検出されなかつた。

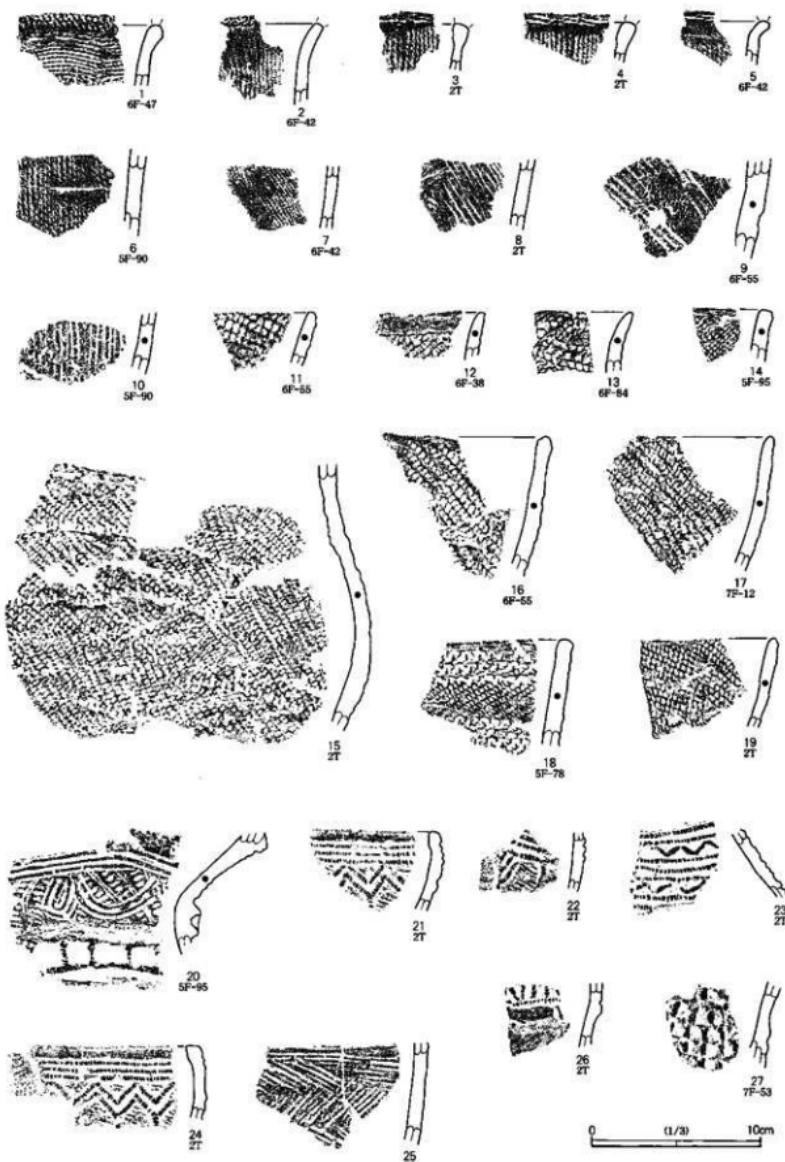
遺物については、縄文時代、奈良・平安時代、近世の遺物が発見されたが、主体は縄文時代の土器と石器である（第5～7図）。

1～10は縄文時代早期、11～40は縄文時代前期、41・42は縄文時代中期、43～45は縄文時代後期の縄文土器である。早期は3層上部、主体を占める前期の土器及び石器は2層、その他の中期以降の土器、土師器、陶磁器なども1層から2層上部にかけて発見されている。

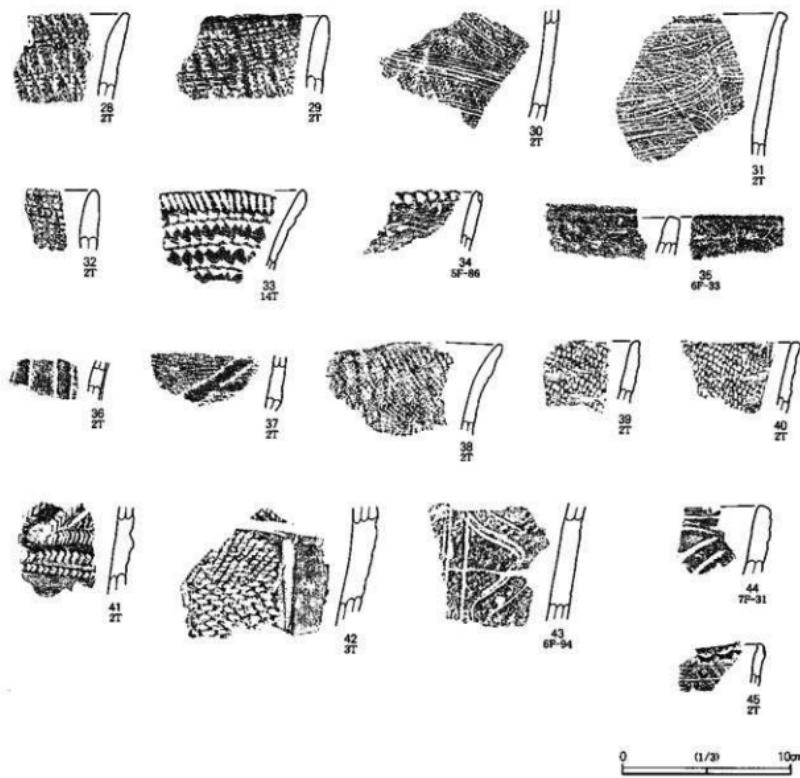
1は井草Ⅰ式である。2～5は井草Ⅱ式である。6～8は撚糸文の胴部である。9・10は条痕文である。おそらく茅山式と思われる。11～19は黒浜式である。15は上下が逆の可能性がある。18は内面の磨きが顕著で、多少古いかもしれない。裏面が赤みを帯びている。20は纖維を含む土器で、前期前半のものと思われるが、詳細は不明である。全体的にもろく、赤みを帯びている。9～20の胎土には纖維が含まれている。21～27は十三菩提式である。28～34は浮島式である。35は内面に縄文が施された土器で前期末の土器と思われるが、詳細は不明である。36・37は前期後半の土器である。38～40は前期末の土器である。41は勝坂式ないしは勝坂式の範疇に入る土器である。42は加曾利EⅢ式である。43・44は堀之内1式である。43は浮島式の可能性がある。45は加曾利B式である。他に時期が特定できない縄文土器が115点出土している。46は黒曜石の石礫である。47は黒曜石の小礫の一部に調整加工が施された削器である。48は黒曜石の微細な剥離痕が見られる剥片である。49～52は楔形石器である。49・50は黒曜石、51は緑色凝灰岩、52は安山岩である。53は黒曜石の石核である。片面に自然面を残す大型の剥片を素材としている。54は刃部の一部に調整加工を施した砂岩の石斧である。55は不定型な凝灰岩の礫に数か所のV字状の刻みの見られるもので、石製品あるいは砥石の一種であろうか。56は砂岩の磨石である。一部を除いて、石器と黒浜式の土器の分布が一致する傾向があることから、これらの石器の時期も前期前半の可能性がある。他に図示しなかつた石器や剥片などがあるが、ほとんどが黒曜石である。また、礫が64点出土している。

57は土師器の杯である。おそらく奈良・平安時代と思われるが、摩耗が激しい。

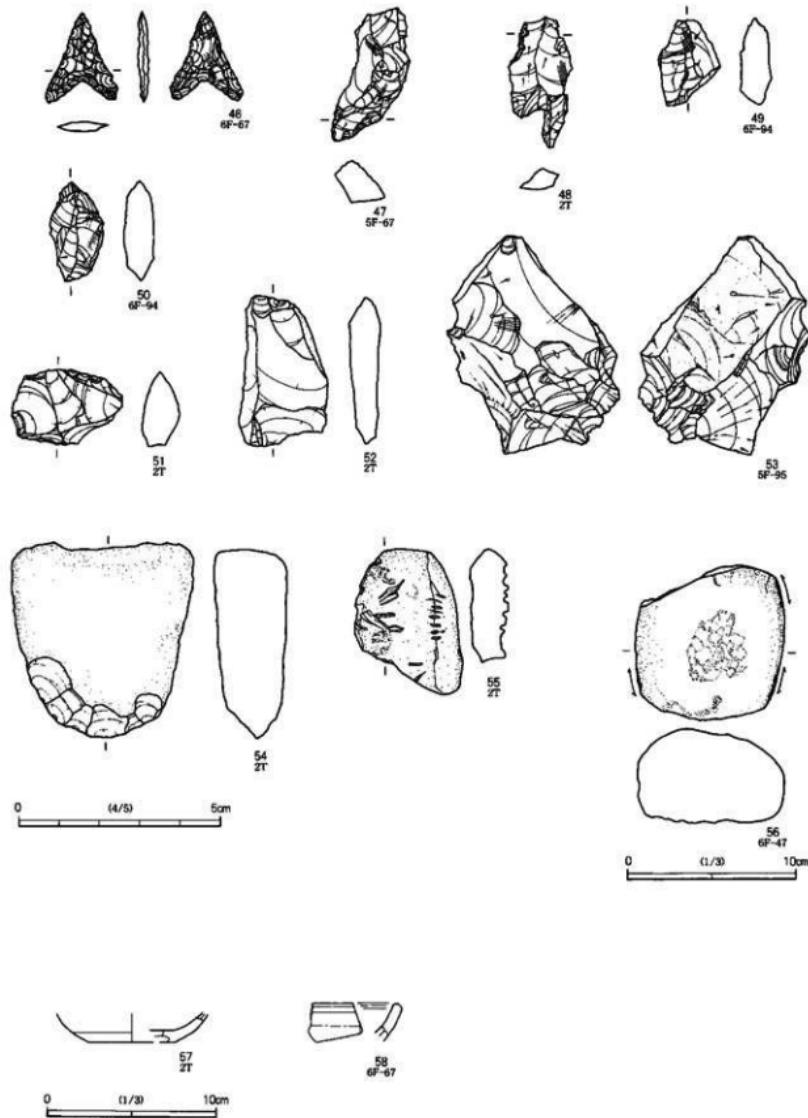
58は小片であるため断定はできないが、17世紀代の志野の皿と思われる。外面に長石釉、内面には鉄釉が施されている。この資料が唯一陶磁器としては古いもので、図示しなかつた残りの8点は近世でも新しい時期のものである。



第5図 出土遺物(1) (黒丸は繊維土器)



第6図 出土遺物(2)



第7図 出土遺物(3)

第1表 土器組成表

	井草I	井草II	鶴糞I	集落I	黒浜	前湖岸	十三番後	浮島	前湖岸	前期末	勝坂	加賀田	塩之内I	加賀田	坂東平野	鶴糞II	不明	計
5F67																	0	0
5F78		2	1	2													1	6
85																	0	0
86													1				1	
90	1	2	2							1							2	8
94																	1	1
95				4	1				2	1			2			1	12	23
97																	0	0
6P05							1						1				2	
06			1														1	
18			1														1	
19																	0	
27																	0	
29			1														1	
33								1									1	
36			1														1	
38			1														1	
42	2	2	3	3												6	16	
43																	0	
44		1					1										2	
45			1				1										2	
47								2	1	3						6	12	
48																	1	1
51							1					2					3	
52			1									1					2	
53	1		1													1	2	
54			1														2	
55		3	10				1		1							12	27	
56								1									1	
57																	0	
62																2	2	
63			1														1	
64			1														1	2
65																	1	1
66			1														1	
67																1	1	2
70																	0	
71																	1	1
72																	1	1
74	1		1														1	3
75																	0	
76			1														1	
81					1												3	3
83					1												1	
85					2												2	
92																	0	
94		1	9									1					2	13
7P01		1					2										6	9
04																	1	1
11																1	1	2
12			1													1		2
22																	0	
31							1					1					2	
42									1								1	
43							1										1	
52							1										1	
53							1										1	
62											2						2	
5660																	1	1
71																	2	2
90																	0	
2T	3	16	2	13		6	16	11	19	1			1	4			50	142
3T		2		1				3	1		1						3	8
13T				1														3
14T																	1	2
不明																	0	
計	1	6	26	13	61	1	7	29	18	27	1	1	11	1	4	1	8	115 331

第2表 石器組成表

	剥片	微細剥離 重剥片	石核	斷石器	石鏟	石斧	削器	磨石	石製品	礫	計
5F67							1				1
78										7	7
85	1										1
86	1			1							2
90										2	2
95	3		1							13	17
97	2										2
6F06	1										1
19	1										1
27	1										1
29	1										1
42										7	7
43	1										1
44	1										1
47	4						1		3	8	
53	2										2
55										9	9
56			1								1
57	1										1
63	1										1
64	1										1
65		1									1
67				1							1
70	1										1
72	1										1
75	1										1
92	1										1
94	1		6						2	9	
7F01			1								1
12	1										1
22	1										1
42									1	1	
43	1										1
62	2										2
5090	2										2
2T	2	1	2	1	1			1	16	24	
3T	1								1	2	
13T	1										1
14T	1		1								2
不明									3	3	
計	39	1	3	10	3	1	1	1	64	124	

第3章 まとめ

今回の調査については、砦に付随する施設などの遺構はもちろん砦に伴う遺物なども発見されなかった。従って、今回の調査範囲外に砦が存在するのかどうか、あるとすればどのような性格を持つものであるのか明らかにすることなどが今後の課題となると思われる。

また、今回の調査では遺構は検出されなかったが、縄文時代、奈良・平安時代、近世の遺物が発見された。特に、縄文時代は前期の黒浜式を主体として、早期～後期の縄文土器や石器が発見されており、この地域に新しい知見を得ることができた。

写 真 図 版



栗倉砦跡周辺航空写真(昭和42年撮影) 約1/5,000

図版2



1.調査前風景(Ⅰ区)



2.調査前風景(Ⅱ区)



3.調査前風景(Ⅲ区)



1.第2トレンチ



2.第3トレンチ



3.第4トレンチ

図版4



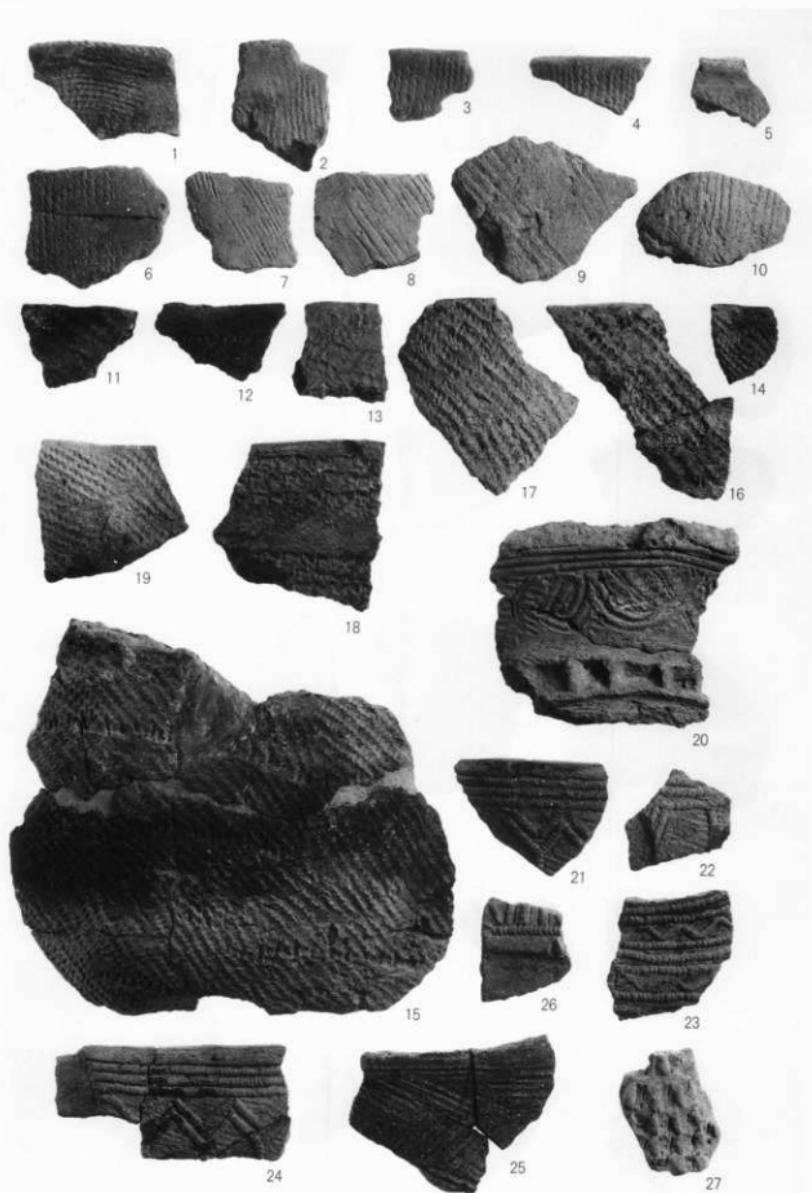
1.第6トレンチ



2.第8~10トレンチ

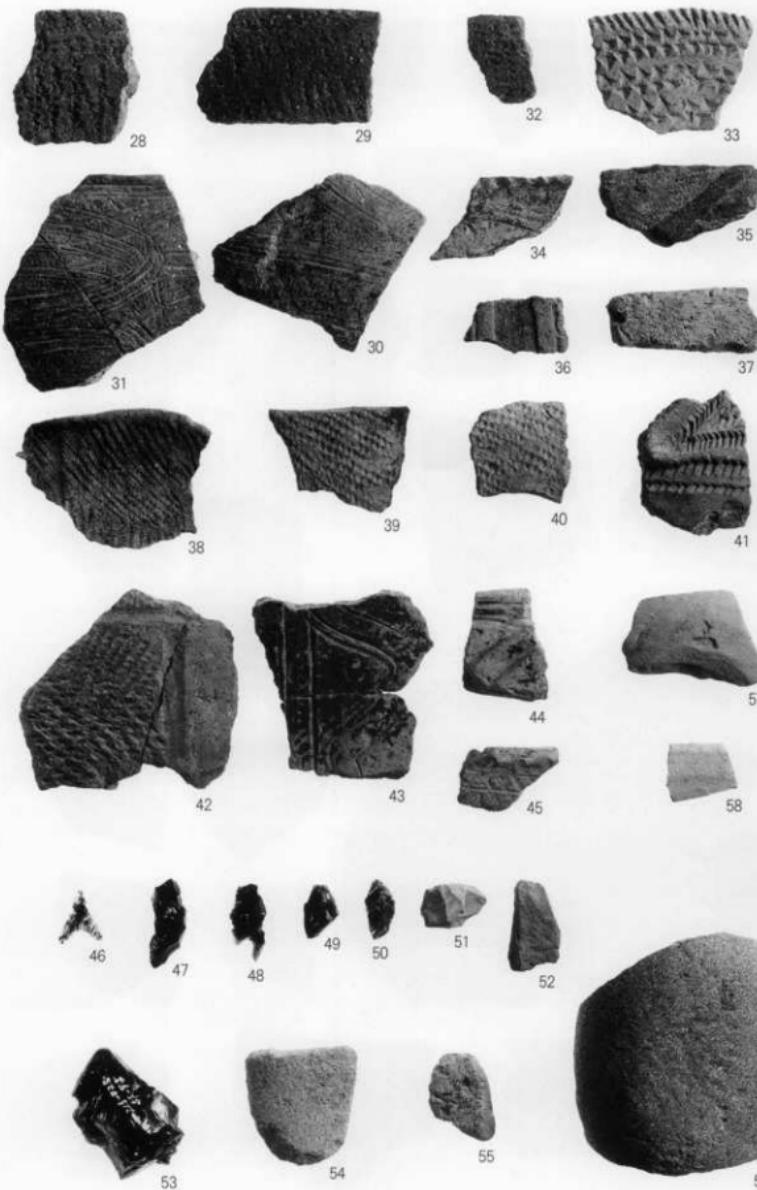


3.下層調査風景



出土遺物(1)

図版 6



出土遺物(2)

報告書抄録

ふりがな	きみつしあわくらとりである
書名	君津市粟倉砦跡
副書名	久留里鹿野山渓線埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第470集
編著者名	田島 新
編集機関	財団法人 千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL. 043-422-8811
発行年月日	西暦2003年11月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
粟倉砦跡	きみつしにしあわくらあさ 君津市西粟倉字 赤坂259-3他	225	025	35度 14分 51秒	139度 59分 36秒	20020901 ～ 20030917	3,000m ²	久留里鹿野山渓線事業 に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
粟倉砦跡	包藏地	縄文時代			縄文土器(早期・前期・中期・後期), 石罐, 楔形石器, 石核, 磨石, 石製品, 剥片, 磨			
		奈良・平安時代			土師器			
		近世			陶磁器			

*緯度・経度は日本(旧)測地系によるものである。

千葉県文化財センター調査報告第470集
君津市粟倉砦跡-久留里鹿野山渓線埋蔵文化財調査報告書-

平成15年11月28日発行

編集 財団法人 千葉県文化財センター

発行 千葉県土木部

千葉市中央区市場町1-1

財団法人 千葉県文化財センター

四街道市鹿渡809-2

印刷 三陽工業株式会社

市原市五井5510-1